

◆母子健康手帳の全国展開に向けたアドボカシー会合及び合同調整委員会（JCC）の開催◆
 2022年3月28日・29日に、プロジェクト最後の最大のイベントとなるアドボカシー会合と第8回合同調整委員会（JCC）を対面形式とZoomのハイブリッド型で開催しました。アドボカシー会合には、保健省（保健省副大臣、国家公衆衛生局長、プライマリーヘルスケア部部長含む）や、在アンゴラ日本国大使館特命全権大使のご臨席も得て、アンゴラの全18州から保健局長や州公衆衛生部門長、世界銀行やPSI等の開発パートナー等々、総勢100名が参加しました。会合では、国家公衆衛生局とプロジェクトが作成した「全国展開戦略」を全州保健局に共有し、手帳の重要性や導入に向けた方針・手順を示しました。アンゴラは、2025年までに母子健康手帳の全国展開を目指しています。2022年4月現在、9州で手帳の導入が開始されています。手帳が未導入の州からは、導入を心待ちにしているというコメントが寄せられました。そして、国家公衆衛生局からは、アンゴラにおける母子保健サービスの質向上や保健サービス利用率の向上のために、手帳の全国展開が重要な方針である旨が強く伝えられました。参加者との活発な議論が交わされ、有意義で実り多い会合となりました。



モデル市のグッドプラクティスの共有



公衆衛生担当副大臣や日本国大使の臨席



教材や他国の母子健康手帳の展示コーナー

- ◆グッドプラクティス（好事例）の共有◆
 プロジェクト対象3州から各1市ずつが、それぞれの市のグッドプラクティス事例について、アドボカシー会合で発表しました。
- ルアンダ州カクアコ市：他プログラムと合同での統合モニタリング&スーパービジョン（M&S）
 - ベンゲラ州ロビト市：母子健康手帳の記入促進を通じたサービスの向上
 - ウアンボ州バイロンドゥ市：メディアを活用したコミュニティ啓発

◆Toyota de Angola, S. A. から5.5万部の手帳が寄贈◆

豊田通商の現地法人であるToyota de Angola社から、2019年の70万部に続いて、2022年3月にも5.5万部の母子健康手帳を寄贈いただきました。合計75.5万部の手帳は、民間企業で最大の印刷支援数であり、プロジェクト3州で1年間に必要な手帳の数に匹敵します！



◆プロジェクト通信◆

2020年2月から連載を開始し、大反響をいただいていたプロジェクト通信ですが、プロジェクトの終了に伴い、本号をもって一旦終了します。毎月読んでくださった皆さま、どうもありがとうございました。プロジェクトは終了しますが、母子健康手帳はアンゴラで永遠に続きます。手帳はJICAやプロジェクトのものではありません。手帳はアンゴラのもので、プロジェクトメンバー一同、全国展開される日を心待ちにしています。